

●ブログ「古田史学の継承のために」議論の記録 16

2017年5月15日(月)

「古田史学」とは何か(大下さん)

「a170515_002.pdf」をダウンロード

大仕事がひと段落して、ようやく大下さんから送っていただいた文章をアップしようとしているのですが、川瀬さんの文章をアップした時のようにはいきません。

早く見たいと思っていらっしゃる方のために、とりあえず読めるようにします。↑ 上をクリック

私はパソコンにはまったく詳しくないので、ここから先に進めません。

どうかご教示ください。(肥沼)

.....

大下さんの言葉

「古田史学」とはどのようなものか、このブログを訪れる方のガイドラインとして、また出来るだけ沢山の方に参加してもらうために、「古田史学とは何か」を先生の著書に記された内容をもとに次のようにまとめました。

<古田史学とは何か：概略>

「多元史観」と「古田史学の方法論」を簡単にまとめたもので、古田先生の監修を受けています。

<「古田史学の基本」は実証精神>

小生が古田先生に考え方の基本について尋ねたところ、松川事件のことを例にあげた「直接証拠と間接証拠」(『邪馬壹国の論理』朝日新聞社1975年)をよく読みなさいといわれました。この論文からの抜粋です。

<「古田史学」の学問研究の方法>

先生が「わたしの学問研究の方法について」(『邪馬一国の証明』角川文庫1980年)に記された内容の要約です。

<古田武彦の学問研究の基本構造>

上記と先生が「古田史学会報」の100号に記念として寄稿された論文にある「人間の倫理(道理)」を加えて図にしました。

先生の言われる「倫理」とは、現在学校教育で行われているような支配側から人々を縛るようなものでなく、「倫理」の語源であるギリシャ語の「エートス」の意味する「人間としてのあるべきあり方・生き方」の意味だと理解しています。

「古田史学とは何か」の小生の理解についてご意見いただければ幸いです。

.....

2017年5月15日(月) 古田史学 | 固定リンク

コメント

肥沼さんへ

大下さんがまとめた原稿の掲載をありがとうございました。

ワード文書からテキストを掲載するのがうまくいかないのは、おそらく、たくさんの表や図形が張り付けてあるからだと思います(それに添付ファイルで送ったために図形の位置がずれてしまっています)。すでにPDFファイルを開覧できるようにしてあるので、「古田史学の方法論」の全文をブログに掲載するのはなしで良いと思います。

そのうえでこのブログ本文に、大下さんが文書を送った際に解説を書いてありましたから、その解説文を、ここに転載したらどうでしょうか。

よろしくお願いします。

投稿：川瀬健一 | 2017年5月16日(火) 12時32分

肥沼さんにお願ひがあります。

「夢ブログ」において、何日間も、前期難波宮九州王朝説についての議論と検証作業が続きました。このままではこれが埋もれてしまうので、こちらのブログに移行していただけないでしょうか。

対象は

①●2017年3月26日(日)『失われた倭国年号《大和朝廷以前》』の中の

投稿：川瀬 | 2017年4月25日(火)00:14から

投稿：大下隆司 | 2017年5月5日(金)18:46まで

私のこの4月25日の投稿をブログ本文として、題は「前期難波宮九州王朝副都」説への疑問としていただき、以下のコメントはこの私の投稿に関する議論になっていますので、そのまま転記してください。

②そのあとの別項目として、

●2017年5月5日(金)

大下さんの「難波宮水利施設」等の調査報告よりと18のコメント。

を掲載していただくと、「夢ブログ」での議論の全体が新しいブログに移行できると思います

こうして頂けると、その後の議論がしやすくなります。

二つの項目についてのコメントという形でも、別に新たに項目を立てた形でもできますので。

よろしくお願ひします。

投稿：川瀬健一 | 2017年5月16日(火)12時56分

肥沼さん

「古田史学」とは何か、をアップしていただき有難うございます。これは古田先生の著書「直接証拠と間接証拠」『邪馬壹国の論理』朝日新聞社、1975年(2010年にミネルヴァ書房から再版)、そして「わたしの学問研究の方法について」『邪馬一国の証明』角川文庫、1980年(近くミネルヴァ書房から再版予定)を簡単にまとめたものです。出来る限り本文

を皆さんに読んで欲しいと思っているものです。

投稿： 大下隆司 | 2017年5月16日(火)14時43分

川瀬さんが問題として述べておられる、古賀さんの学問の方法を、考えるために「二中歴」について考えてみたいと思います。ここの「年代歴」については、かつて、市民の古代において、丸山晋司さんと古田先生との間で、論争が有りました。古田先生が歴史事実と考えたことに対して、丸山さんは筆者の歴史認識であるとされました。わたしも歴史認識であるという立場です。

「年始569年内39年無号不記支干其間結繩刻木以成政」という書き出しから始まり、継体5年(517)から所謂九州年号が開始されます。この文章を素直に読めば、517年から569年後の今、この文書が書かれたということになります。1086年です。二中歴のもととなったといわれる、懐中歴一掌中歴が書かれたといわれる時期と一致します。また、39年間文字が無く、結繩刻木をしていたという表現は、「隋書」の「無文字唯刻木結繩 敬仏法於百濟求得仏経有始文字」という記事と「日本書紀」欽明天皇13年(552年)の記事を案分して書かれたものと考えられます。歴史事実であるなら、「倭王武の上表文」が存在するのですから、成り立ちません。また、細注においても、白鳳に書かれた、「対馬採銀觀世音寺東院造」も「日本書紀」を元に書かれたものであり、筆者の目にしたのものにもとずいた、考証であり、細注を九州王朝系資料と呼ぶ古賀さんの学問の在り方には疑問を持つしかありません。

投稿： 川瀬さん。肥沼さん。上城です。 | 2017年5月17日(水)17時50分

上城さんへ

古賀さんの学問の方法について考えるということで、「二中歴」について考えたいとのこと。

であればコメント欄ではなく、肥沼さんをお願いして、別項目に立てて、もっときちんと議論しませんか。「二中歴」とは何かなど、私は基礎知識がありませんので、詳しく説明して頂けると、質問などいろいろできますから。如何でしょうか。

ついでに引用された冒頭の文章。漢文としてみると読みがおかしいと思うのですが。私には、「年始569年。内39年(年)号なく、干支も記さず。その間、繩を結い木に刻んで以て政をなす。」だと思います(国会図書館のデジタルコレクションで確かめましたが)。

投稿：川瀬健一 | 2017年5月17日(水) 23時52分

川瀬さんの読み下し通りです。私もそう読んでいます。文意を先の文章のように理解したのです、(近代オリンピック開始から550年、その間戦争で開催されない年も有った)というような文章と同じである、と理解したわけです。立ち上げていただいた「ニ中歴」についてで、もう一度述べてみたいと思います。

投稿：川瀬さん。肥沼さん。上城です。 | 2017年5月18日(木) 11時47分